

令和 6 年度 第 2 回海陽町学校のあり方検討委員会  
議事録

日 時：令和 6 年 9 月 24 日（月）18:30～19:30

場 所：阿波海南文化村 海南文化館 大会議室

出席者：委員 16 名中 11 名出席

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、浦川課長補佐  
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子

■ 会次第

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 議事
  - （1）海陽町学校再編基本計画について
  - （2）学校再編スケジュールについて
  - （3）住民説明会実施について
- 4 その他
- 5 閉会

（皆津委員長）

それでは、議事を進めます。6 月 24 日から 7 月 2 日まで、町内 3 地区で、海陽町立小・中学校の再編に係る地域住民説明会を実施しました。その結果について、概要説明をお願いします。事務局より資料の説明があつてから、委員の皆様から、資料への質問を受け付けますので、よろしくお願いいたします。

（事務局）

資料 1「海陽町立小・中学校の再編に係る地域住民説明会報告書」をご覧ください。6 月 24 日から 7 月 2 日まで、海陽町の 3 庁舎で、海陽町立小・中学校の再編に係る地域住民説明会を開催しました。1 ページをご覧ください。穴喰庁舎は 18 人参加、海部庁舎は 16 人参加、海南庁舎は 16 人参加しました。延べ 50 人参加となりました。地域住民説明会開催の告知は、町の広報誌とホームページで呼びかけています。地域住民説明会の進行は、海陽町学校再編基本計画の内容説明を行い、参加者から質問や意見を伺っています。報告書には、出された意見をすべて掲載しています。

（2 ページ～4 ページの意見をすべて読み上げ）

以上が 3 つの地区での意見です。それぞれ地区ごとに意見内容が異なります。穴喰地区は、将来 1 校 1 校になることを意識しての意見、通学手段の確保、災害発生を想定した児童生徒の家庭への引き渡しについての意見が出ています。

海部地区では、海南小との再編統合に関して、統合時期令和 9 年度の確認、海南小との統合がやむを得ない状況と認識されていましたが、児童が増えると教育の質が落ちる懸念、小学校が地域から無くなると地域の学習ができなくなることの不安であるとの意見が出ました。

海南地区では、海部地区からコミュニティが無くなること、海部小と海南小の統合に反対意見があった場合の地域との話し合いについて、合意形成の判断はどのようなものか意見が出ています。

各会場でアンケートを取っています。6ページをご覧ください。小学校と中学校すべてがクラス替えを可能とすることについて、海南地区は4割がそう思う、海部地区は3割がそう思う、穴喰地区は1割がそう思うとなりました。1校1校については、海南地区6割がやむを得ない、海部地区は1割がやむを得ない、穴喰地区は2割がやむを得ないとなりました。海部地区は6割が1校1校について反対意見となりました。7ページをご覧ください。2校2校については、『賛成』の割合が「穴喰小校区」では6割、「海南小校区」では5割となっています。これに対して、「海部小校区」では『反対』の割合が約5割となっており、他の地区と比較して、『反対』の割合が高くなっています。アンケートでの自由意見についてもすべて記載しています。説明は割愛します。

(皆津委員長)

今、事務局より海陽町立小・中学校の再編に係る地域住民説明会開催結果概要を説明してもらいました。内容への質問はありませんか。

(原委員)

説明会参加者数50名をどう捉えるべきでしょうか。どの状況を、理解が得られていると判断したらよいのだろうかと思います。質問に対して事務局が答弁しても、同じ質問は出てくると思います。この点もどうしていくべきかと思いました。

(事務局)

何よりも多くの人の目に触れるように考えています。5月の広報誌で学校のあり方委員会の報告を掲載し、住民説明会開催案内も掲載して、全戸配布しています。ホームページにも掲載しています。保護者の方全員に通知もしました。令和6年9月に議会全員協議会で学校再編について報告しています。議員から海部小学校の統合は令和9年ですかという質問があり、複式学級の改善が見込めないタイミングで統合を考えていますと答弁しました。1校1校は令和10年ですかとの質問もあり、計画の中では時期について決めていないことを説明しました。2校2校体制になり部活動の関係で1校2校に移行する事も考えられ、その後に1校1校に進んでいく事も想定され、どのタイミングになるかの認識が難しいところです。住民説明会での参加の人数が50名であったことで、参加しない人への説明、不安解消はどうであるかの対策の質問には、広く広報して広めていく事を考えていますと答えています。できるだけ丁寧に説明していく事を考えています。

(三浦教育長)

3地区説明会が終わってから、事務局の中で、理解が得られたのか、来られなかった方は賛成なのか、見ていない人もいるのではないかなど相談しました。学校のあり方検討委員会の中で、今後理解を得ていくためにどうしていくのかご意見いただけたらと思います。

(辻委員)

同じ方向に向かうように周知の方法を考えていく必要があります。広報誌、ホームページ、保護者へ案内を出すことをやっていき、統合をやるんだとわかってもらうことを、何回も周知していけたらいいのではと思います。

(皆津委員長)

住民説明会の参加は保護者だけですか。

(事務局)

一般の方も参加できるように周知しています。

(皆津委員長)

事務局では 50 人は少なかったと思いますか。

(事務局)

もっと多いかなと感じていました。保護者にもっと来てほしかったと思います。保護者の方の理解がどうなのか測れないところです。

(皆津委員長)

今後の事が大事で、繰り返し繰り返し説明会をやって、やりすぎといわれても、丁寧に説明を心掛けていくことが大事です。

(岩本委員)

海部小学校の反対意見が多かったです。体育祭の後に説明会を行うなどすると参加ができるのではと思います。

(皆津委員長)

多くの保護者の参加を得るために説明会を単独開催ではなくて、何かの行事にくっつけて説明会を行うということですね。

(三浦教育長)

PTA 総会の後に説明会を行う事も検討しました。PTA 総会の後ですと、その学校の校区のみの参加になるので、就学前保護者の方の参加も必要ですし、地域の方の参加も必要なので、単独で説明会を開催しました。

(岩本委員)

説明会を賛成に持っていくのであれば、生徒数が減っていく事に説明が偏ったのかなと思います。少人数だから統合しますと言うと説明の仕方だと反対が多くなるのは当然かなと思います。教育のメリット、防災のメリット、通学のメリットの説明をして行く方がいいのではないのでしょうか。海部は少ないから統合ではなく、海部は少ないからいいと思っている保護者がいますので。子どもの教育未来のビジョンがあれば明るいイメージができます。

（三浦教育長）

学校のあり方検討委員会に諮問したとき、行政改革の面で再編統合するのではなく、20年先を見据えて、教育環境が持続できるように、子ども第一で諮問しました。2校2校体制、1校1校体制に関する答申を頂いて、その後、学校のあり方検討委員会で教育の4つの視点で話し合っ、再編基本計画が確定しました。これで住民説明会を開催しました。少人数のメリットとデメリットについて資料を基に学校のあり方検討委員会で、議論いただいて、少人数のメリットもやがて限界がやってくることを踏まえて、まとめています。教育委員会が行革で進めているわけではないです。将来のビジョン、見通しについて説明がなかった、ので、今後話を進めていきます。

（岩本委員）

保護者にしたら、綺麗な校舎の姿や、教育のあり方が想像できたらいいと思います。次の説明で、学校建設の場所、道路整備、学校統合の順で進めていきますだったらいんですが、今の状態で、海南に行きます、その後に道路整備しますでは、反対が出ると思います。

（三浦教育長）

基本計画を理解いただいて、次回検討委員会を立ち上げるので、その中で意見を頂いていくことを考えています。

（岩本委員）

海部から海南に行くには川を渡ります。津波が来たら川を渡れません。そうなるのが目に見える状況で心配です。

（三浦教育長）

将来的に1校1校で穴喰から海岸線を走ってくるリスクがあり、質問が出ていますが、道路がいつできるのか見通しがついていません。意見を言っただけののがあるがたいです。

（皆津委員長）

学校の再編統合は、学校が地域からなくなる、地域から文化がなくなるということです。保護者だけでなく、地域の住民も参加していただき大きな課題だと思っています。

（岩浅委員）

最初に全体で説明会、学校の集まりの時に説明会する機会を持てたらという話がありましたが、学校では今年度まだ集まる授業が2回あります。

（皆津委員長）

事務局は、この機会を知ってほしいと思います。次の議題に移ります。議題2の「今後の進め方再編統合の進め方」について、事務局から説明してください。

（事務局）

資料2をご覧ください。今後の進め方再編統合の進め方について説明します。今後再編統合を進めるにあたり、地域の合意形成を取りつつ、教育委員会と地域関係者が一緒になって学校統合を進めるため、「学校再編検討会」を立ち上げて、地域の関係者と再編の合意形成を図ります。現時点では、海部小と海南小の再編統合を想定し、1つ「学校再編検討会」を設置する予定です。

「学校再編検討会」の参加者は、再編する各学校のPTAや社会教育及び放課後子ども教室関係者、コミュニティスクール関係者等の地域住民、学校関係者の参加を考えています。

「学校再編検討会」で話し合いを進め、一定の合意が得られた段階で、「学校再編検討会」から「学校再編準備委員会」へ名称を変えて、2ページに示すように、具体的な学校統合の準備を進めていきます。「学校再編検討会」の設置は、令和7年度に予定します。令和9年度、あるいは9年度以降に新学校をスタートする予定です。

（皆津委員長）

今の説明を聞いて、質問ありますか。他に無いようですので、事務局の方でどうでしょうか。

（事務局）

学校のあり方検討委員会は、あと1回あります。

（岩本委員）

合併は、結婚と同じだと思いますので、子どもの交流はどうでしょうか。円滑な統合に向けて、交流できているのが大事だと思います。

（三浦教育長）

平成20年に学校再編計画ができて、平成23年度に、現在の3小学校、2中学校の体制ができた。その次の段階で、2校2校体制で、海部小と海南小を再編する、その後に1校1校に進んでいくことになって、10年が過ぎて、今に至っています。その流れで、ご理解いただきながら進めていき、合意形成を図りながらいくので、説明の機会があったらいいなどのご意見をいただきました。3回目を開催させて頂かないと、1回の説明会で合意を得たとは考えていないので、また、報告させてください。

（皆津委員長）

他に何かありませんか。

以上